

河内地区 大塚自治会

「大塚自治会住民は一つの家族」

●加入世帯数：146世帯

●加入率：97.3%

活動内容

大塚自治会は、核家族化が進む中であって、大塚地域を一つの家族として捉え、地域で三世代が交流しながら「大塚自治会住民は一つの家族」を基本として、安全安心を念頭にした日常生活を一人一人が自覚し、以下の三本の柱を推進しています。

第一の柱.

『会員参加型の安全安心大塚づくり』
旧河内町のシンボルフラワーであった「サギソウ」を子供たちの手で育てる活動や、地域から出土した「縄文土器片」を活用した歴史の勉強会を開催し、郷土愛を育む活動を推進してきました。



第二の柱.

『住まいと子どもの安心確保づくり』
日頃の登下校安全確保パトロールを主軸として、会員の皆さんの散歩の時間を登下校時に振り替えて頂き、「見守り隊活動」を推進中です。



第三の柱.

『健全で魅力ある集落づくり』
毎年スローガンを掲げ「大塚自治会フェスタ」を今までに11回開催しています。また、地区の象徴である高竈（たかお）神社に五穀豊穰・安全祈願を行っています。文化祭では、絵・写真・手芸など趣味の作品を出展して頂き、住民の文化活動の志を知ることにより、尊敬と親しみが育まれ演芸などを通して三世代の交流を図りながら、「住んでよかった大塚自治会」への愛着を深める活動を展開しています。

これらの事業効果は

- ① ご近所付き合いの重要性の再確認
- ② 自分たちの自治会は自分たちで住み良くしようとする認識が醸成される
- ③ ロコミによる地区内各種活動団体への参加者の増加
- ④ 「顔見知り」になり『あいさつ』を気軽にする機会が増加
- ⑤ 自主的ごみ拾い活動により「ごみの投棄」が無くなった
- ⑥ 高齢者層の活動が活発になり、笑顔を見かける瞬間が多くなったなど多方面に表れています。



加入率を維持する秘訣

大塚自治会は、(都市計画法の調整区域で全世帯が一戸建て)新築される方に自治会の取り組みの基本である「大塚自治会住民は一つの家族」のテーマを説明し三世代が交流することにより、自治会の一員として参加活動する機会があることや、「地域の子どもは地域で育てる」活動内容などを説明し加入促進を行っています。

特に、長年先輩が築き上げてくれた伝統を念頭に、自治会に加入することで、日々の暮らしに安全と安心が得られることなど加入のメリットを説明しています。

その為、新築等による転入者の新規加入漏れはないまま、現在に至っています。

私の地域自慢

大塚自治会

子どもたちの郷土愛を育む機会を高齢者が提供しています!

大塚自治会内では、矢じりや縄文土器片が田畑の中から出土し、大塚新田古墳群(大塚十三塚古墳群)の中から見つかった馬具は日本の編年の基準になるほど重要な遺物として東京国立博物館に収蔵されており、今でも高麗神社古墳として一基が水田の中にぽつんと取り残され、地域住民の心の拠所としての杜そのものがあがめ祀られているなど、大きな塚のある地だから大塚と呼ばれ、昔から人が生活し易い環境の土地であったようです。

江戸時代初期の寛文8年(1668年)新田開発により下田原村から分村して大塚新田村が起源と思われ、平成30年(2018年)には350年を数える自治会です。

また、源頼朝などが奥州への途上に通過したと思われる鎌倉街道の跡や明治の鉄道(旧東北本線)敷設の名残である真っ直ぐな道路や橋げたが現存しているなど日本の歴史が垣間見られる自治会でもあります。

そんな歴史を持った大塚自治会では、旧河内町が宇都宮市に合併する前から「大塚自治会住民は一つの家族」をテーマに、三世代が集う「大塚フェスタ」を開催し、世代間交流を推進しながら、特に未来の時代を担う子どもたちへの郷土愛を育む活動に高齢者団体(シルバースクラムズ)が主体的にサポートして「縄文土器片」「サギソウ」を媒体にして活動しています。



縄文土器片に触れながらの勉強会



サギソウ鉢植え講習会